

# 総務常任委員会の記録

(防災安全課)

招 集 年 月 日	令和5年3月3日 (金)
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	3月13日 (月) 午前10時59分
閉 会	同 上 午後 0時05分
出 席 委 員	山石 恭助、山崎 匡、加藤 康幸、森岡 健治、赤松 紀幸、 安西 博文、山田 寛二
欠 席 委 員	
付 議 事 件 説 明 の ため 出 席 し た 者 の 職 氏 名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫、 課長 中井 和彦、課長補佐 山本 和幸
職 務 の ため 出 席 し た 者 の 職 氏 名	議会事務局長 大谷 吉廣
付 議 事 件	1 議案第18号 令和5年度松野町一般会計予算について ◎歳入 (該当分) ◎歳出 2款 総務費 9款 消防費

山石委員長	<p>ただいまから、防災安全課所管の付託案件の審査を行います。</p> <p>議案第18号「令和5年度松野町一般会計予算」歳入該当分、歳出2款総務費、9款消防費、防災安全課所管分の審査を行います。</p> <p>担当課長に説明を求めます。</p>
中井課長	<p>(業務計画について業務計画書により説明)</p> <p>議案第18号「令和5年度松野町一般会計歳入歳出予算」について、歳入該当分、歳出2款総務費、9款消防費の防災安全課該当分を、予算書に基づき説明します。</p> <p>まず、歳出予算から説明します。予算書41ページの下段から。</p> <p>2款総務費、1項総務管理費、3目行政放送施設費の予算額は17,374千円で、前年度比11,308千円の増額としています。主な増額の内容としては、12節委託料のうち、防災等情報伝達設備更新実施設計委託料8,162千円を新たに計上したためであります。</p> <p>内容を説明いたしますので、委員会資料6ページをお開きください。</p> <p>事業内容であります。町から住民に対する防災等の情報は、令和4年2月の防災行政無線の停波により、IP告知放送による戸別放送と、旧防災行政無線の設備である屋外放送局を使って放送していますが、鉄柱は昭和60年に建てられたもので、耐用年数である30年を大きく超えていることに加え、放送用機器類は平成16年整備のもので、最近では不具合が多くなってきております。</p> <p>そこで、これらの設備を更新するとともに、放送の聞き取りやすさと屋外放送設備の基数削減のため、高性能スピーカーの導入と、光ケーブル断線時でも非常を知らせることができる、モーターサイレンを導入するための実施設計を行うものであります。</p> <p>事業費につきましては、実施設計委託料として8,162千円を計上し、財源は緊急防災・減債事業債を充当することとしています。</p> <p>なお、実施設計の策定にあたっては、施設の更新を基本とします</p>

が、今後も情報伝達手段の多重化についても検討することとしており、議員の皆様方にもご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

また、スケジュールにつきましては、年度当初に入札を執行し、実施設計が出来上がった段階で工事費の補正予算を提案し、年度内の工事着手に向け、取組んでいきたいと考えております。

次に、予算書47ページ、9目交通安全対策費の予算額は6,817千円で、前年度比979千円の増額としています。主な増額の内容としては、10節需用費の内、電気料引き上げによる光熱水費の増額、街路灯修繕実績による修繕料の増額によるものです。

なお、一部の箇所において、樹木が街路灯の支障となっている事例があるため、12節委託料として支障木伐採委託料88千円を計上しております。

次に、予算書48ページ、11目諸費の内、防災安全課所管の予算額は860千円で、前年度比107千円の減額としています。主な減額の内容としては、前年度、本町が自衛官募集の重点市町に指定されたため、10節需用費の消耗品費を増額していたためであります。

次に、予算書50ページ、16目情報通信基盤施設管理費の予算額は60,249千円で、前年度比5,168千円の減額としています。主な減額の内容としては、18節負担金、補助及び交付金のうち、鬼北情報通信基盤施設管理運営費負担金を5,249千円減の58,786千円計上したためであります。

次に、予算書99ページ、9款消防費、1項消防費、1目非常備消防費の予算額は20,735千円で、前年度比1,368千円の増額としています。

主な増額の内容としては、前年度実績見込みにより、1節報酬を1,520千円増の11,757千円計上したためであります。

次に、予算書100ページの下段から、2目消防施設費の予算額

は61,409千円で、前年度比51,486千円の増額であります。

主な増額の内容としては、消防積載車及び小型動力ポンプの更新がすべて完了したことから、消防車庫及びホース乾燥柱建設事業と、耐震性貯水槽整備事業を新たに実施するためであります。概要を説明いたしますので、委員会資料8ページをお開きください。

消防車庫及びホース乾燥柱建設事業につきましては、消防車庫9棟のうち、5棟がコンクリートブロック造りで耐震基準を満たしていないため、大規模災害に備え更新するものであります。

また、ホース乾燥柱につきましては、ホース干しとしても利用していた半鐘台を撤去したため、乾燥場がなく各部からの要望があることや、景観的にも良くないことから、併せて整備するものです。

来年度につきましては、消防車庫が一番古い第1分団第2部（延野々）を予定しており、それ以降についても左下のスケジュールにあるように、計画的に整備していくこととしています。

事業費につきましては、12節委託料のうち、設計監理委託料1,144千円、14節工事請負費のうち、10,780千円を計上し、財源につきましては、緊急防災・減債事業債を充当することとしています。

次に委員会資料9ページをお開きください。耐震性貯水槽整備事業につきましては、水源の乏しい地域における消防水利を確保するため、部落要望のあった4箇所について、耐震性貯水槽を整備し、地域の消防力の向上を図るものであります。整備予定箇所としては、豊岡前8区、富岡小屋の川、目黒中央二及び上目黒の4箇所で、年度内完了を目指します。

事業費につきましては、12節委託料のうち、登記調査測量委託料1,830千円、測量設計委託料1,160千円、14節工事請負費のうち、45,400千円を計上し、財源につきましては、国の消防防災施設整備費補助金と緊急防災・減債事業債を充当することとしています。

次に、予算書101ページ、3目水防費については存置予算として  
ています。

同じく予算書101ページ、4目災害対策費の予算額は7,593  
千円で、前年度比800千円の増額であります。主な増額の内容と  
しては、3節職員手当等において前年度の実績見込みにより、79  
2千円増の1,576千円計上したためであります。

そのほか、18節負担金、補助及び交付金においても、前年度実  
績見込みにより、防災士資格取得受講負担金を62千円増の120  
千円計上しています。

以上で歳出について説明を終わり、歳入の説明へ移ります。

予算書23ページの中段、14款国庫支出金、2項国庫補助金、  
7目消防費国庫補助金、1節消防施設費国庫補助金については、消  
防防災施設整備費補助金として、10,972千円としています。

続いて、予算書27ページの上から2段目、15款県支出金、2  
項県補助金、6目消防費県補助金、1節災害対策費補助金につい  
ては、福祉避難所機能強化・整備促進事業費補助金として、180千  
円としています。

同じく、予算書27ページの下段、15款県支出金、3項委託金、  
1目総務費委託金、1節諸費委託金については、自衛官募集事務委  
託金として、交付見込み額の14千円としています。

続いて、予算書29ページの上段、16款財産収入、1項財産運  
用収入、2目利子及び配当金、1節利子及び配当金のうち、当課所  
管分は災害対策基金預金利子として8千円としています。

続いて、予算書31ページの上段、18款繰入金、2項基金繰入  
金、5目災害対策基金繰入金、1節災害対策繰入金については、災  
害対策繰入金として、1,052千円としています。

続いて、予算書34ページの下段、21款町債、1項町債、4目緊  
急防災・減債事業債、1節緊急防災・減債事業債のうち、消防車庫及  
びホース乾燥柱建設事業、耐震性貯水槽整備事業、防災等情報伝達

<p>山石委員長</p>	<p>設備更新実施設計委託料、鬼北地域情報通信基盤施設管理運営費負担金に対して、合計104,600千円充当することとしています。</p> <p>以上で説明を終わります。よろしく御審議いただき、ご承認いただきますようお願いいたします。</p> <p>担当課長の説明が終わりました。</p> <p>委員からの質問を許します。</p>
<p>山田委員</p>	<p>業務計画書の5ページなのですが、消防防災体制の整備という項目の中で、3番ですかね、地域防災計画及び業務継続計画（BCP）におけるPDCAサイクルの徹底とあるんですけども、私が知ってるPDCAのプラン・ドゥ・チェック・アクションのことですかね、これはいろんなところで使われとると思うんですけども、事例として、今までに何回かプラン・ドゥ・チェック・アクションで計画を立てて、実施、見直しまでされとると思うんですけども、そのような実施例で、成功と言ったらおかしいんですけど、こういうふうにやって、うまくできてますよという事例がありましたら、教えていただきたいのと、また今後具体的にこういうプラン・ドゥ・チェック・アクションで取り組んでいくという項目がありましたら、あわせてお聞かせいただけたらと思います。</p>
<p>中井課長</p>	<p>まず1点目の、地域防災計画などにおけるPDCAサイクルを活用したのは、見直しの実例案でございますが、ここに書いておりますように、地域防災計画で、1つ大きな成果として上がっております。</p> <p>その内容としましては、何回も説明をしておりますが、平成30年の7月豪雨の件でございます。</p> <p>それまでの地域防災計画とか、それに関連する計画におきましては、どちらかという、ひな形に充てたような防災計画でありましたが、30年の7月豪雨を経験したことによりまして、それまで自分たちで考えられなかったような内容について、把握することができたので、その時の知識と経験を、地域防災計画のほうにも盛り込</p>

	<p>みましたし、そのあとの業務継続計画、BCPにおいても、同じく経験を生かすことができしております。</p> <p>また、今後の事例につきましては、ちょうど昨年度、避難警戒レベルが5段階に整備されました。その内容も含めまして、地域防災計画について見直しをしているところでございますが、現在災害に対する国の取組みというのがすごく早い動きをしております、国がその指針を改めていくのに対しまして、町としましても国が更新をしていけば、町も対応していかないといけないということで、少ない職員の中で、そういった計画の見直しについては、今後も進めていかないといけないとは考えておりますが、効率よくそういった業務ができるよう工夫はしていきたいと考えております。</p>
山 崎 委 員	<p>消防防災体制の整備というところの8番なんですけれども、耐震性貯水槽の新設及び改修による消防水利の確保というところなんです。私も消防団に所属しております、かなり大がかりな火災が起こった時の水利として、貯水槽というかそういうところから水利を取るんですけれども、量的にはやはり限られてるんですけれども、他町村、四万十市とか見た時に、大規模河川とかは、流れている河川に対して消防道の整備というのが行われてるんですけれども、我が町においては、消防道の整備というのが、あまりなされてないような感じがするんですけども、法的な部分とか県の方針とかいろいろあるのかもわからないんですけども、長期間燃えるような時に、河川というのはもう有効な水利の場ですので、これから検討するか今の状態ではできないとか、そういうふうな方針的なものを、お答えしていただいたらと思います。</p>
中 井 課 長	<p>今回の防火水槽の整備の大きな目的といたしましては、4地区あげている全ての地区におきまして、今おっしゃいましたような、河川とかという自然水利ですね、これに非常に乏しいところ、もしくは、消火栓を引きたいにも、水圧が低くて、消火栓すら整備ができないような箇所から、部落要望として強く上がってきていたものです。</p>

そういったことから、今回の防火水槽の目的といたしましては、あくまでも初期活動に対する対応のためのものとして整備をしていきたいと考えております。

今回整備しますタイプとしましては、40立米のタイプでありまして、4万リットルの貯水ができるものであります。

一概には言えんのですが、1本のホースで、放水をした場合の時間なんですけど、大体、毎分1,000リットルと言われております。そういったことから一線だけ延ばした場合、約40分間初期活動として、防火水槽を利用することができます。ただし、それを分岐したり、ほかのポンプを入れたりすれば、当然時間は短くなってしまいうわけですが、まずは初期対応も、今できない地区があるということで、その整備に向けて、今回補助事業を要望するものであります。

そしてその初期活動の間に、よその分団とかによる応援により、ちょっと遠くはなるかもしれませんが、別の水利から防火水槽のほうへ貯水していただくといったような形で、火災現場で延焼することがないように対応していきたいと考えております。

河川等の利用につきましては、どこの河川もちょっと、時期によって、渇水時期とか、そういう時には、どうしても水量が少なくなってまいります。

先日の消防の出初式におきまして、なかなか水利がとれない、広見川でさえ取れないといったような状況であることから、そういったことについては、計画的に、消防団でも、どこで水がとれるのかといったことなどを情報共有していただきまして、自然水利の有効活用といいますか、もうメインとなるのは、自然水利で間違いございませんので、そういう取り込みについて、私たちも支援なり、一緒に協議をさせていただいたらと考えております。

山 崎 委 員

追加でお答えしていただいたらどうか、再質問的なことになるんですけど、今の時点で、広見川、ほかの河川等への消防道の整備っていうこと自体をする計画はないんだろうとは思いますが



	<p>も、やはり広見川で水利を取る時に、搬入路がないとか堤防を乗り越えてポンプを担いでっていうような状態があると思います。</p> <p>現場で私も経験してるんですけど、そういう意味で、ある程度の人口密集地の近くとか、そういうところで河川へのちゃんとした道路っていうものまでは必要ないと思うんですけど、ある程度、河川の近くまで、消防ポンプを載せた車が近寄れるような状態があれば、より消火活動に役立つんじゃないかなというふうにちょっと思ってるんで、その辺を可能でしたら、今後の計画等に少し反映していただくと、消火活動に対して適切な活動ができるんじゃないかと思えますんでその辺、もうお答えが必要ないんで、また御検討していただいたらと思います。</p>
中 井 課 長	<p>ただいまの再質問でございますが、先ほどの1点目の質問の時に誤解しておりましたので、再度説明をさせていただいたらと思います。</p> <p>河川道の整備につきましては、先日の本会議の折にも、延野々ですとか吉野の一部において、動きがあるということが報告はございましたが、防災安全課としましても、そういう情報を、つかみましたら、あわせて消防道の確保について要望をしていきたいと考えております。</p>
山 崎 委 員	<p>また、今ある場所についても、消防団とかで現場を見ていただいて、ここは何かしとったほうがいいぞとか、そういう案件がございましたら、そういうものについても、部落ですとか、消防団から要望を上げていただきましたら、対応をしていきたいと考えております。</p>
森 岡 委 員	<p>是非検討していただいて、初期消火または大規模な火災に対応できるように検討していただいたらと思います。</p>
	<p>予算のことでお尋ねいたします。</p> <p>2款1項9目交通安全対策の中で、支障木の伐採費8万8,000円、16目情報通信管理費の中で、これも支障木35万2,000</p>

<p>中 井 課 長</p>	<p>0円、予算的にこのぐらいの予算で対応できるのか、万が一、そういう事例が出た時には、追加補正、別枠から出してくるのか、その辺だけ、教えていただけたらと思います。</p> <p>支障木の予算につきましては、御指摘の2、1、9の交通安全対策費と、2、1、16の情報通信基盤整備管理費の中で、8万8,000円と、50万円余りを上げさせていただいているところでございます。</p> <p>この金額につきましては、今年度の実績を見込んだ額でありまして、もし足りない場合の対応等について御質問がありましたが、そういった場合につきましては、補正予算で対応することにさせていただいたかと考えております。</p> <p>ただし支障木の伐採委託料につきましても、町単のものと、情報通信基盤につきましては、鬼北地域のユーキャット等の予算もございまして、当初予算としてはこういう形で上げさせていただいたということと考えております。</p>
<p>森 岡 委 員</p>	<p>ということは、柔軟に対応するという理解でよろしいですか。</p>
<p>中 井 課 長</p>	<p>支障木の伐採につきましては、柔軟な対応をしていき、必要であれば、早急な対応をして、住民の皆様へ情報をお届けできるように対応していきたいと考えております。</p>
<p>山 田 委 員</p>	<p>基本方針のところの6項目ですかね、消防団員の確保という項目があると思います。</p> <p>私も20歳過ぎから20年ほど、消防団に入っとったんですけども、なかなか仕事等の都合で、やっぱ途中で辞めざるを得ない場合もありまして、そういうこともあって、なかなか消防団員の確保というのは、現在難しいんじゃないかなと思うんですけども、やっぱあの職場のほうの理解というのが、ネックになってる部分もあると思うんですけども、そこら辺も含めて、消防団員の確保を今後どのような形で進めていかれるのか、火災やいろんな事件があった場合、事故があった場合には、やっぱり消防団員が本当に活躍されてます</p>

<p>中 井 課 長</p>	<p>んで、大変、住民にとっては大事なことだと思うんですけど、今後の消防団員の確保対策について、人口が減つとるんで難しいとは思いますが、そこら辺ちょっと教えていただけたらと思います。</p> <p>消防団員の確保については、当町のみならず、全国的な問題でありまして、全国では年間に数千人から1万人以上か、それぐらいの団員が減っているという、大変重要な問題となっております。</p> <p>当町におきましては、定員が200人ですが、現在、2月末現在で154人の消防団員がおります。</p> <p>この数字は、ここ数年ほぼ横ばいでして、高齢になられて長らく勤めていただいた方で退団される方もございますが、地元に残って、新たに消防団に入ろうかと言っていた方もいるような内容で、現在154人という人数をどうにか確保しているところでございます。</p> <p>ただし、これも10年20年先まで行くかという、高齢化とかそういった人口減少によりまして、全ての対応が難しいことから、今現在考えておりますことは、火災とか災害時だけに出動していただける消防OBですね。制度の導入ですとか、企業などを巻き込んだ機能別消防団制度という制度もございます。</p> <p>そういったことについても、今後、検討していくべき内容であると考えておりますので、消防団の幹部会をはじめ、消防委員会等でそういった内容を今後検討していきたいと考えております。</p>
<p>山 田 委 員</p>	<p>なかなか人員確保が大変難しいのも分りますんで、先ほどOBの活用とか、いろんな方法等があると思いますんで、そこら辺をうまく活用しながら、人員確保というかそういう有事のときの対応ができるように、またお願いしたいなと思います。</p>
<p>赤 松 委 員</p>	<p>消防団員の確保について、関連してお聞きしたいと思いますが、昨年の12月に新聞報道がございまして、今、中井課長のほうからも説明ありましたように、全国的にも、消防団員数が減っているということで、消防団離れが起きるとるという現象のようでございます。</p>

が、本町でも今ほど数字を示して説明がありましたが、定数は200人ですけど、実態は154人ということで、先般の2月12日は、出初式があったんですけど、そこでは101名の団員の参加出席をされております。

ということで、なかなか条例定数から言えば、半減というような感じになっているわけですが、今ほど説明ありましたように、万一の災害の時にはある程度の団員数も確保していなければ、なかなか初期消火等も困難になると思われま

す。そういうことから、OB会の活用ということも、案として示されたわけですが、全国的な消防団の団員不足という中で、消防庁のほうでは、やはり消防団離れを食い止めるためには、負担軽減を図る必要があるということで、操法大会の見直しや、それから出動報酬の引上げなども検討していくという内容になっておりますが、今の段階で、操法大会等の見直しについても、何か、消防庁のほうから連絡といいましょうか、問合せ等は、あるのかということと、それからそのもう1つ団員の確保の中で、女性や学生の勧誘にも力を入れるというようなことも載っていたわけですが、学生は本町の場合なかなか難しいと思うんですけど、女性の団員ですよ、そこら辺はあわせて、努力すべき内容ではないかと思われま

すが、そこら辺の考え方をお聞かせ願いたいということです。それともう1点、防災等の情報伝達整備更新事業が、今回当初予算に計上されておりますが、今年度中に事業着手ということでの実施設計の予算計上でございますが、今からの予算、実施設計を組むということで、なかなか事業費等については、なかなか概要わかりにくいと思われま

すが、おおよそこの事業を実施するに当たっては、どのくらいの事業費を想定されとるのか、またその財源はどのような見通しを立てられているのか、今分かってる範囲で内容の説明を

中 井 課 長

まず消防の操法大会のことですが、消防庁からは、そういった団

員確保のための、操法大会に関連した文書はございますが、それを取りやめよとか、そういったような文書の案内は来ておりません。

そういったことで、今後も操法大会につきましては、昔は地区大会があって県大会という流れで、県内においても行われておりましたが、現在は、もう町の代表が決まりましたら、一発で、県大会ということで開催を今後もされる見込みです。

当町におきましても、小型ポンプ操法の部に、昨年も出場に向けて練習をしていたところなのですが、コロナ禍ということで、辞退をしていたような状況であります。

そういったことで操法大会につきましては、今後なくなるとか、そういったことはございませんので、今、こちらで把握している情報としては、そういうことで御理解をいただけたらと思います。

2点目の、消防団への女性や学生の勧誘という点につきましては、女性団員、現在4名いらっしゃいます。4名の団員さんは、いずれも自分から消防団に入りたいという強い意識を持って入っていただいたばかりの方でございます。

そういったことで、女性団員からほかの団員にも周知をしていただくとともに、事務局としましても、広報とか消防団を通じまして、周知活動のほうを進めていきたいと考えております。

ちょっとまだ具体策については、示せないわけですが、女性消防団員につきましても、一時期は10人ほどの女性団員があった時期がございます。再びそれぐらいの女性団員が確保できるように、事務局としても努力していきたいと考えております。

最後に情報伝達手段の工事費の総事業費につきましては、電柱ですとか、その電柱についております機器の設備のやり替えだけで、本当に概算ではございますが、4億5千万円ほどの事業費の報告を受けております。それはあくまでも、今ある45基の屋外放送局を、全てやり直したらということではありますが、今回の実施設計におきまして、高性能スピーカーを導入することで検討しております。

赤松委員	<p>そうなってきますと、45基ある屋外放送局も、数基は減少できるのではないかと考えておりますので、そういったあたりは実施設計の中で検討を進めていき、また議会のほうにも御報告をさせていただいたらと考えております。財源につきましては、緊急・防災減災事業債を予定しております。</p> <p>今、防災情報伝達更新事業の事業費を聞いて少し驚いたんですが、過去には、今まであったアナログの防災無線の電波が停波になるということで、その後どのような体制を敷いていくかということで、議会のほうにも再三、協議をしたところでございますが、その時の協議結果としては、やはり今現在IP告知システムを導入されておいて、これが10年近く経過したので、主要設備の大規模更新を予定していることから、両方の情報データシステムを整備することは、財政的になかなか困難であるということで、基本的にはIP告知システムを中心に、情報伝達を図っていくということで取り組むというような基本的な考え方で協議したと、私は記憶してるんですけど、このような中であって、今、やはり既存の施設を利用して、よりよいベターな伝達、事業をとということで、今回この事業が計画されていると思うわけですが、事業実施されるにあたって、ある程度の抑えた金額で実施されるのかということを想定しておりましたので、その財源としては、緊急防災減災事業債の起債を充当するというような内容でございます。</p> <p>有利な起債といえども、なかなか金額のはった事業になっておりますので、果たしてどうかということで、今後、議会のほうにも提案をされましたら、協議をさせていただいたらと思うわけですが、少し想定よりも使っておりますので、もし、町長のほうから何かお考えがあれば、説明を聞いておきたいと思っております。</p>
坂本町長	<p>この防災情報の伝達手段なんですけれども、御指摘のとおりいろいろ検討した結果、松野町の場合はIP一本化でいこうという方針で、結論を出してやっております。</p>

今もその考え方は、基本的な考え方には変更がありませんが、どうしてもそのIPにしたり無線にしても、方式はどちらであれ、この電柱が老朽化しているというところはもうどうしようもない事実でございます、これは耐用年数も、かなり経過しておりますので、もうこれはこの際やり替えようと、もし何かあった時に、転倒でもしたら大変だということで、今回やり替えを決意したわけでございます。

ただ、御承知のとおり、ただのやり替えでは、起債の対象になりませんので、何がしかの機能を付加しなければならないということで、今回はモーターサイレン、高性能スピーカーを導入して、起債対象事業にしたわけでございますけれども、御指摘のとおり担当課長のほうから4億5千万という数字が出たんですけれども、これはあくまでもまだ基本設計にもいってない段階で、業者に見積りをとった段階のものでございます。

今回、当初予算のほうでこの実施設計を予算化いただきましたら、その中で例えば、適正な場所、本数がどれぐらいのものなのか、あるいはその電柱とかそういった機器の素材につきましても、それが適切なもの、今のところは想定でしかないんで、適切なものはどこにあるのか、そういったことも含めて、これから検討をしていきたいというふうに思っております。

それともう1つ、今いろんな新しい技術が開発をされていまして、IP一本化ということには、基本は変わらないんですけれども、それに付随して、例えば携帯電話のいわゆる電波を利用してやるとか、本当に日進月歩で今変化が進んでおります。

そういったところも含めて研究をして、IPにはどうしても断線という危険性がありますので、それを十分補完できるように、もちろんコストパフォーマンスといいますか、幾らでも投資ができるというわけではございませんので、そのバランスを考えながら、これからの情報伝達手段について、検討を進めていきたいと思っております。

	<p>またこの件につきましては、先ほど言いましたように今年度中に実施設計を終えて、できればその電柱の建て替えにつきましては、今年度中に発注をしたいというふうに考えておりますので、それまでの間、皆様に情報を提供いたしまして、それぞれ御指導いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>質問ではないんですけど、ちょっと意見だけ言わせてもらったらと思います。</p> <p>先ほど、消防団員の確保ということで皆さんいろいろ言っていたんですけど、一議員そして一消防団員として、意見を言わせてもらったらと思います。</p> <p>当然町の防災においては、消防団はかけがえのない人材ですので、確保確保というよりは、もう議員さんそして町長を含め、皆さんがやっぱり消防団員が不足してるっていうことを自覚していただいて、そういう人材がおられる、職場とかにおるとかいうことやったら、そういう情報も言っていただいて、共通の認識として、自らが声をかけるというような行為までしていただいたら、本当に、団員としては助かるんじゃないかなと思っておりますので、それを最後にお願いとして言わせてもらって、私の意見とさせていただきます。</p>
山崎委員	<p>質問ではないんですけど、ちょっと意見だけ言わせてもらったらと思います。</p>
山石委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>質問が無いようであれば、採決に移ります。</p> <p>ただいま審査しております、議案第18号について、原案のとおり御承認いただけますか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>賛成全員です。</p> <p>したがって、当委員会は、議案第18号「令和5年度松野町一般会計予算」歳入該当分、歳出2款総務費、9款消防費、防災安全課所管分については原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。</p>



会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和5年4月27日

松野町議会総務常任委員会委員長 山石 恭助